

# 小松島港みなとまちづくりにおける、まちづくり分野と教育分野の連携による Win & Win 型ボランティア制度創設について

## A Study about the "Win&Win Type Volunteer System" of based on Cooperation of "Town-Planning & Education" at Komatsushima-Port Planning.\*

花岡史恵\*\*、澤田俊明\*\*\*、田中紀子\*\*、田村聡子\*\*\*\*、滑川達\*\*\*\*\*、山中英生\*\*\*\*\*

By Fumie HANAOKA\*\* Toshiaki SAWADA\*\*\* Noriko TANAKA\*\*

Satoko TAMURA\*\*\*\* Susumu NAMERIKAWA\*\*\*\*\* Hideo YAMANAKA\*\*\*\*\*

### 1. はじめに

平成 14 年度からの「総合的な学習」の時間の導入に伴い、一層、学校教育と身近な地域社会や環境との関わりが重要視されて来ており、教育分野とそれ以外の種々の専門分野との連携が不可欠になってきた。

平成 16 年度に、徳島県小松島市に位置する A 高校では、「小松島 地域が元気だ！学校も元気だ！オンリーワンハイスクール事業」として、学校活動と地域活動を連携する事業が実施された。

その活動の一環として、A 高校と、小松島市の港湾遊休施設を拠点としてみなとまちづくり活動を行っている「NPO 法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま」(以下、NPO こまつしま)との連携活動が始まった。

NPO こまつしまでは、みなと再生方策の活動プロセスとして、平成 11 年度～13 年度の「第 1 期：再生ビジョン作成時」、平成 14 年度～15 年度の「第 2 期：活動立ち上げ時」を経て、平成 16 年度は、「第 3 期：再生活動継続時」へと進展している<sup>1</sup>。

また、NPO こまつしま活動の現状は、若者の参加が少なく、参加者の大半が高齢者であり、活動の活性化、活動の継続性が大きな課題となっており、Win & Win 型ボランティア制度は、NPO こまつしまの抱える課題解決の一手法として、開発された活動プログラムである。

Win & Win とは、交渉学<sup>2</sup>において、交渉する相互に何らかのメリットがあり、相互の満足を満たす交渉の合意条件として位置付けられている。つまり、「どちらも勝ち」ということで、関係者相互で「Win & Win」の状態構築の重要性が指摘されている。

そして、NPO こまつしまにおいて、「平成 16 年度全国都市再生モデル調査」<sup>3</sup>の一環として、「Win & Win 型ボランティア制度試行実験」が実施された。

まちづくり分野と教育分野の連携については、港まちづくりにおいては、福島県小名浜港での環境教育的活動や、静岡県舞阪海岸における地元小学校の総合学習授業への活用等、全国的にも港を活用した環境教育や体験活動の例は数多く紹介されている<sup>4</sup>。また、教育現場の教師とまちづくり専門家等の協働による連携活動としては、河川を利用した総合的な学習における現場の学校関係者のニーズを抽出整理した報告<sup>5</sup>、等が挙げられる。しかし、まちづくり分野と教育分野の連携によるボランティア制度創設については、本事例が先進的な事例として挙げられる。

本研究では、小松島港みなとまちづくりで実施されているまちづくり分野と教育分野の連携により創設された Win & Win 型ボランティア制度を紹介し、Win & Win 型ボランティア制度の相互のメリット及び課題と今後の可能性について考察する。

### 2. Win & Win 型ボランティア制度の試行

#### (1) 試行実験の目的

Win & Win 型ボランティア制度試行実験は、小松島港みなとまちづくりにおける、まちづくり分野と教育分野の連携によるボランティア活動活性化、ボランティア活動関係者間で相互に価値を獲得する Win & Win 型制度の確立、を目的としている。

\* キーワード：市民参加、地域計画、ボランティア制度  
\*\* 正員、(有)環境とまちづくり(〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町福原川北 30 TEL08854-4-6290)  
\*\*\* 正員、博(工)(有)環境とまちづくり(〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町福原川北 30 TEL08854-4-6290)  
\*\*\*\* 学生員、徳島大学工学部(〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1、TEL088-656-7350)  
\*\*\*\*\* 正員、工博、徳島大学工学部(〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1、TEL088-656-7350)

## (2) 仕組み

ボランティア制度試行実験に先駆けて、ボランティア制度の仕組みを検討した。その構成は、【照会】【推薦】【認証】【登録】【記録保管】からなる。以下にボランティア制度の仕組み模式図を示す。

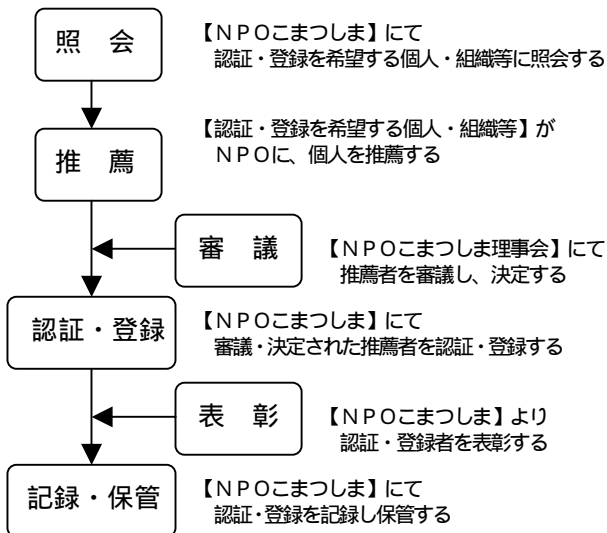


図 1 ボランティア制度の仕組み模式図

## (3) 試行実験の概要

ボランティア制度試行実験として、実施要領作成、推薦要領作成、関係者意向調査、対象者の認証、について実施した。以下に、概要を示す。

表 1 Win&Win 型ボランティア制度試行実験の概要

項目	概要	実施日
実施要領作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア制度は、NPOにて創設した。</li> <li>名称は「こまつま・港まちづくりボランティア活動認証登録制度」とする。</li> <li>創設の目的は、まちづくり分野と教育分野の連携によるボランティア活動活性化、ボランティア活動関係者間で相互に価値を獲得する Win&amp;Win 型制度の確立、とする。</li> <li>制度の構成は【照会】【推薦】【認証】【登録】【記録保管】からなる。</li> <li>制度の期間は単年度ごととする。</li> <li>【照会】【推薦】の対象は、小松島市内の中学校、高校とし、【認証】【登録】対象は、小松島市内の中学校、高校の生徒とする。</li> <li>対象となるボランティア活動は、NPO こまつま主催の小松島港およびその周辺地域のみなとまちづくりボランティア活動等とする。</li> </ul>	平成 17 年 2 月制定
推薦要領作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>推薦の対象とする組織は、A 高校、個人は、A 高校生徒とする。</li> <li>対象とするボランティア活動は、みなと周辺清掃活動、みなとギャラリーづくり、みなとカフェメニューづくり、金磯松原の育樹活動、の 4 活動</li> <li>提出書類は、推薦書、ボランティア活動概要、認証・登録推薦者の氏名と活動記録、とする。</li> <li>締め切りは平成 17 年 2 月 18 日とする。</li> </ul>	平成 17 年 2 月制定
関係者意向調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア認定登録制度の制定に当たり、A 高校を対象にヒアリング調査を行った。</li> <li>ヒアリング内容は、ボランティア認証制度の確認、平成 16 年度の認証対象者の確認、平成 17 年度の展開の方向、として、計 3 回実施した。</li> </ul>	平成 17 年 1 月 27 日 2 月 7 日 2 月 16 日
対象者の認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>小松島高等学校にて、全校生徒を前に、対象生徒 22 名の認証を実施した。</li> </ul>	平成 17 年 2 月 28 日

## (4) 関係者意向調査（試行前・学校関係者）

ボランティア制度試行実験に先駆けて、関係者意向調査を実施した。関係者意向調査は、ヒアリングとし、ボランティア制度試行実験の対象者である A 高校の校長および担当教諭を対象として、平成 17 年 1 月～2 月に計 3 回実施した。以下にヒアリングまとめを示す。

表 2 試行前ヒアリングまとめ

<p>制度への期待</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生・高校生のみなとまちづくりへの参加 進学での実績証明に活用を期待している</li> <li>高校からの活動証明は、大学が認めてくれない(A 高校談) 本制度に期待</li> <li>中学からの活動証明は、高校が認めてくれない(県内中学校長先生談) 本制度に期待</li> <li>対象となる活動の時間：授業を除く、生徒の自主的な活動を対象とする必要がある</li> </ul> <p>平成 16 年度について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 高校として、約 20 名程度(1~3 年生の全学年の計)を推薦したい</li> <li>対象者の選定：活動回数・活動時間で選定、4 回以上・15 時間以上を目安でどうか、</li> </ul> <p>要望</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>A 高校での認証式(A 高校・希望)における NPO よりの直接授与をお願いしたい 2 月 28 日(月) 13:00~</li> <li>マスコミにも本制度の紹介をお願いしたい <ul style="list-style-type: none"> <li>みなとまちづくりボランティア認証・登録制度の創設</li> <li>2 月 28 日の A 高校における認証授与</li> </ul> </li> </ol> <p>今後の展開について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 17 年度に、小松島市内教育関係者との連携会議を開催してはどうか</li> </ul>
---

## (5) 試行実験の成果

Win&Win 型ボランティア制度試行実験では、認証・登録の対象となる活動を、港周辺の清掃活動、みなとギャラリーづくり、みなとカフェメニューづくり、金磯松原の育樹活動、の 4 活動とし、A 高校の生徒 22 名が認証・登録された。

試行実験の認証式の様子と、試行実験成果を以下に示す。



写真 1 全校生徒の前で行われた認証式(A 高校)

表 3 Win&Win 型ボランティア制度試行実験の成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>Win&amp;Win 型ボランティア認証・登録制度の仕組みの検討は、NPOこまつしまとA高校との連携活動を基に、相互の価値観を満足させる形で進められた 話し合いの場があったこと、ヒアリングによる意向調査が実施されたこと等</li> <li>関係者相互の理解の中で、Win&amp;Win 型ボランティア認証・登録制度の仕組みが誕生した</li> <li>実際に、Win&amp;Win 型ボランティア認証・登録制度の対象者が存在していた A高校生徒が、みなとまちづくりのボランティア活動に率先して参加していた</li> <li>A高校の22名の生徒が、全校生徒の前で表彰された</li> <li>全校生徒の前で表彰されたことから、表彰の対象となった生徒が、みなとまちづくり活動に参加していたことが、学校内に周知された</li> <li>全校生徒の前で表彰されたことから、みなとまちづくり活動とA高校のボランティア活動が連携活動として展開されていることが、学校内に周知された</li> <li>表彰された生徒は、ボランティア活動を行った事が地域で認められ、それが活動への達成感や地域との関わり方への自信の1つにも繋がった 表彰式の様子より推察</li> <li>表彰された生徒を推薦したA高校においても、学校内に、地域の組織から表彰者が選出されたことが実績となった</li> <li>NPOこまつしまにおいても、高校生生の地域活動へ参加を得たこと、地域の活動組織として高校生を表彰できたことが実績となった</li> </ul>
--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の行っている活動への評価が、「認証登録」という形で得られるという達成感を感じているようである</li> <li>みなとの活動に参加した生徒は、楽しみながら参加している みなとカルタ大会では、高齢者からこどもまでが参加し、高校生がカルタ読みのボランティアを行った先生の関心</li> <li>オンリーワンハイスクール事業の一環でもあり、学校の特徴ある活動への認証制度として教員に認知されている</li> <li>元々熱心な教員が多かったが、最近、特に若い教員が、積極的に参加するようになった 今後の展開への要望等</li> <li>現在の仕組みで、認証制度の継続を希望する</li> <li>学校側の推薦基準は、学校独自の推薦基準があって良い</li> <li>A高校では、ボランティア活動への継続参加を評価し、参加回数を推薦基準として、推薦者数のバランスを考えていきたい</li> <li>表彰式は、今年度からは、代表者への手渡しで良い</li> </ul>
B高校及びC中学校	<p>ボランティア制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度創設の目的、制度の仕組みは理解できた</li> <li>生徒の励みにもなり、学校としても活用していきたい</li> </ul> <p>ボランティア制度の対象活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>NPOの活動を生徒に案内したい イベントのスタッフ手伝いなども認証の対象になるのは、生徒の関心も高まると思われる</li> <li>学校独自の地域での取り組みについても対象となるのは有り難い 福祉科、食物科でのボランティア活動制度の適用についての意見要望等</li> <li>NPO活動における認証の対象となる行事の年間スケジュール表などがあれば、学校からの案内もしやすい</li> <li>NPOのイベント時などに、食物科のPRのための商品販売(B高校で開発され注目されている「おからアイスクリーム」等)をさせてほしい こういった活動も認証対象として取り入れてもらえるとうり難い</li> <li>ボランティア活動の参加は、個人の自由意志となるため、NPOのボランティア活動への生徒の参加を学校で把握しきれない場合もあるので、NPO活動に参加した生徒の名前を後で報告してもらえるとうり難い</li> </ul>

### 3. 試行実験後の関係者意向調査

ボランティア制度施行後の関係者意向調査として、試行実験の対象となったA高校および今年度から実施対象となる小松島市内の高校、中学校の中から、B高校、C中学校の2校、計3校に対して、ヒアリング調査を行った。以下に調査概要とヒアリングまとめを示す。

表 4 試行実験後の関係者意向調査の概要

ヒアリング項目	対象者	時期
<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア認証制度試行実験の効果</li> <li>ボランティア活動への生徒の関心</li> <li>ボランティア活動への先生の関心</li> <li>今後の展開への要望等</li> </ul>	A高校長	平成17年6月
<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア認証制度について</li> <li>ボランティア認証制度の対象活動について</li> <li>認証制度の適用についての意見要望等</li> </ul>	B高校教頭及び教諭 C中学校長及び教諭	平成17年6月

表 5 試行後ヒアリングまとめ

	ヒアリングまとめ
A高校	<p>試行実験の効果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校とNPOこまつしまとの連携で、港のボランティア活動を行っていることが、認証制度という形で現れたことにより、学校内だけでなく、地域での学校の評価につながり、それが徳島県や国にも評価されている</li> <li>NPOの認証により、学校の活動が学校外部から評価されることになり、活動している者の励みになった</li> <li>表彰式を行ったことで、学校内に、ボランティア活動している者の周知や認証制度の周知が徹底できた</li> <li>学校が行っている活動と地域の活動との共通性が認知されることによって、生徒が地域の一員であるという自覚を身に付ける機会にもなった</li> <li>ボランティア活動は、特技がなくても、誰でもが「気持ちでできる活動」であり、その「ボランティア・マインド」が形になって評価されるという「認証登録」の効果は、参加者にとっての「心の誇り」につながっている</li> <li>生徒の関心</li> <li>自主的にボランティア活動に参加する生徒が増えた</li> </ul>

### 4. Win & Win 型ボランティア制度の考察

#### (1) 相互の Win & Win について

ボランティア制度試行実験を経て、試行後の関係者意向調査により、試行実験の対象となったA高校における学校側のメリットについて確認することができた。また、NPO側としても、試行実験の結果、NPO活動の活性化に繋がっている。ボランティア制度試行実験および試行後の関係者意向調査を踏まえて、相互の Win & Win について以下に示す。

表 6 相互の Win & Win

学校側の Win	<ul style="list-style-type: none"> <li>受験および就職時の内申書への記載が可能である</li> <li>ボランティア活動に参加した生徒の功績が認められた 参加した生徒の励みに繋がった</li> <li>全校生徒の前で認証式が行われたことで、学校が実施したボランティア活動が全校に周知された</li> <li>ボランティア活動が評価されることが全校に周知された ボランティアマインドの浸透(評価されることで「心の誇り」に繋がる)</li> <li>参加した生徒が学校外で、地域の一員として自発的に楽しみながら活動を行っている 地域学習の機会が増大した</li> </ul>
NPO側の Win	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO活動へ高校生の参加が得られたことで、NPO活動が若返った 若者が港にあつまるきっかけとなった</li> <li>NPO活動への新しい提案がされた 活動が活性化された</li> <li>新しい活動が展開されたことでNPO活動への関心度が高まった NPO活動の後継者づくりに繋がった</li> </ul>

## (2) 課題と今後の可能性

試行実験後の関係者意向調査の対象となったA高校、B高校、C中学校、のヒアリング調査結果を参考に、ボランティア制度の課題項目を抽出した。課題項目としては、大きく、認証の対象となる活動の種類、学校側（推薦）の選定基準、NPO側（認証・登録）の選定基準等、が挙げられる。それぞれの課題項目を試行実験と照らし合わせて、課題と今後の可能性について考察を行った。課題項目に沿った課題と今後の可能性について以下に示す。

表 7 課題と今後の可能性

	試行実験	課題	今後の可能性
対象となる活動の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>港の清掃活動</li> <li>港活性化事業への参加</li> <li>みなとギャラリー設置</li> <li>都市再生事業への参加</li> <li>カフェメニュー開発WS</li> <li>金磯松原復元のための植樹(A高校の活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活性化事業等の予算がなくなる</li> <li>と事業への参加呼びかけが困難となる</li> <li>年間のボランティア活動の種類が確定していない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>港の清掃活動は今後も対象となる</li> <li>NPO活動への参加機会を増やすことにより、活動への意識高揚と後継者づくりに役立てる</li> <li>新たなNPO活動展開時にも参加を促すことにより活性化が図れる</li> <li>NPOと学校の連携活動でとどまらず新たな地域活動への参加連携等も考慮に入れると活動の幅が広がる</li> </ul>
学校側（推薦）の選定基準等	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動回数4回以上および20時間以上参加の生徒を抽出し選定した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度よりボランティア活動に参加する生徒が増加している</li> <li>できるだけ多くの参加者を推薦したいが、あまり多くすると認証の価値が下がる恐れがある</li> <li>学校によってもレベル差が出る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校によって活動のレベル差は生じると思われるが、各学校独自の選定基準に任せる方向が望ましい</li> <li>選定基準を学校に一任することにより、NPOと学校の信頼関係の構築にも役立つ</li> </ul>
NPO側（認証・登録）の選定基準等	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの推薦者確認後、推薦者22名を認証・登録した</li> <li>試行実験であったため推薦を重視した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO独自の認証・登録の選定基準ができていない</li> <li>学校側は単年度推薦となるが、NPOでは継続した認証・登録による新たな仕組みが必要 例えは3年連続認証者への表彰等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も推薦を重視するのが望ましい</li> <li>連続認証で顕著な活動がみられる生徒には、別の表彰等を行うことにより、活動への達成感、誇りを与えると共に、さらに地域への愛着心や活動への意識高揚にもつながると思われる</li> </ul>

## 5. おわりに

小松島港みなとまちづくりで実施されているまちづくり分野と教育分野の連携によるWin&Win型ボランティア制度は、まちづくり分野においても教育分野においても相互に価値を獲得するための活動プログラムとして、NPOこまつしまにて創設された。

その仕組みは、照会、推薦、認証・登録、記録・保管、から構成される。

平成16年度の試行実験では、港周辺の清掃活動、みなとギャラリーづくり、みなとカフェメニューづくり、金磯松原の育樹活動、の4活動を対象に、A高校生徒22名の認証・登録がなされた。

試行実験後の関係者意向調査では、学校側のメリットとして、参加した生徒の励み、学校全体のボランティアマインドの浸透、地域学習の機会の増大等が挙げられ、また、港まちづくりNPO側のメリットとしては、若者が港に集まるきっかけづくり、NPO活動の活性化、NPO活動の後継者づくり等が挙げられる。

今後、認証の対象となる活動の種類、推薦の選定基準、認証・登録の選定基準等、学校側もNPO側も共に検討を要する課題もあるが、Win&Win型ボランティア制度は、地域と学校をつなぐ、まちづくり分野と教育分野の連携活動の一手法として、有効な制度であるといえる。

### 【参考文献】

- 1 花岡史恵、澤田俊明、田村聡子、山中英生、高木利記、武田将英：小松島港みなとまちづくり事例分析に見るみなと再生方策の考察、土木計画学研究・講演集、vol30、No.332、2004年11月
- 2 (社)土木学会四国支部：土木技術者のための合意形成技術の教育方法に関する調査研究 平成14年度業務委託成果報告書、第3章 米国における合意形成技術の教育プログラム、p.10-47、平成15年3月
- 3 国土交通省四国地方整備局：平成16年度全国都市再生モデル調査小松島市における港の「食」を要とした市民行政協働による持続的まちづくり推進調査、平成17年3月
- 4 国土交通省四国地方整備局・(財)港湾空間高度化環境研究センター：旅客ターミナル施設再生方策検討調査、平成16年3月
- 5 花岡史恵、澤田俊明、上月康則、山中英生、湯佐昭二：教育関係者のニーズによる河川を利用した総合的な学習における河川関係者等の役割について、土木計画学研究・論文集、vol20・No.1、p.229-234、2003年9月